

OBたちの60年

元「あぶくま」通信長には繩梯子を吊り下げて上
 我々年代の青春は戦争の 菊池 金雄 がったので、ふと、戦時中
 真っ只中だった。私は昭和 ノロノロと途中で一呼吸し
 15年、神戸の船会社の不定 てよじ上ったら、甲板長ら
 明貨物船に乗ってから2年 しい大男がデッキに引揚げ
 後に開戦となり、計5隻の てくれた。先方からみれば
 貨物船やタンカーで戦火の 招かざる官憲なのに、ロシ
 海を挺身。うち4隻が戦没 ア人の素朴さを感じた。
 して最後の1隻がソ連参戦 立ち入り検査は操業日
 下の北鮮から辛うじて脱 誌、操業海域、
 出、終戦直後舞鶴に奇跡的 漁獲量、魚種、
 に帰還したが、戦争の悪夢 漁具などテキパ
 は終生払拭できない。 視線は気味のよいものでは
 海保には昭和26年に入 キとチエック
 庁。八戸、釜石、小名浜、 なかった。



二管本部各通信所勤務後、
 潮気が抜けた51年、八戸の
 船艇勤務に配置換えとなり
 一兵卒並みに船務習熟に励
 んだ。たまたま船長が船会
 社仲間のS氏でいろいろバ
 ックアップを得たのは幸い
 だった。

翌年になると、新海洋秩
 序の200海里漁業水域対
 応で、12海里領海内の外国
 漁船監視取締りが示達され
 た。日ソ間漁業交渉でソ連
 漁船の操業海域・漁獲割当
 量・許可割り当て隻数を決
 定し、巡視船が違反操業の
 監視取り締まりに当ること
 になった。

やがてソ連漁船は母船式
 船団を編成し、大挙三陸沖
 で操業を開始したので、船
 外機付きカッターでロシア
 語の速成通訳官を伴いソ連
 漁船団に臨検班を派遣して
 取り締まりに当たった。時
 々私も新米班長として大型
 母船を臨検したが、母船側

三陸沖ソ連漁船団臨検の思い出



解役直前の巡視船「おくしり」

し、最後に船長室で違反有
 無判定をもって完了とな
 る。加工母船には女子工員
 もかなり乗船していたが、
 薄暗い加工場の白人女性の
 ある時、違反か否か判定
 に時間がかかり退船時刻が
 日没になってしまった。母
 船側はなぜか下船時に照明
 してくれなかったので、巡
 視船側のサーチライトでカ
 ッターに移乗できたもの
 の、折悪しくしげ模様で船
 外機が脱落寸前となったた
 め、オールを漕いで辛う
 じて帰船したこともあっ
 た。

その後200海里対応の
 新鋭大型巡視船「しもき
 た」の配置に伴い、老齢の
 「おくしり」が解役になっ
 たので同基地の「あぶく
 ま」に転じた。「おくしり」
 ではリーダーが1台のため
 補修に苦労したが「あぶく
 ま」には2台あり苦労が霧
 散した。

ここで定年の証(あか
 し)に5カ月かかってクル
 マの運転免許をとり、56年
 4月無事退官。中古マイカ
 1で、初めて高速道など突
 っ走って無事仙台の自宅に
 たどり着いた。